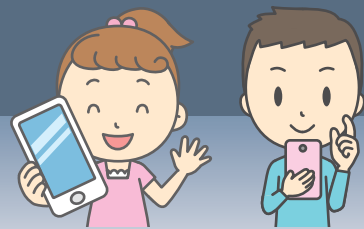


どちらのルールを守るべきか



インターネットによる人権侵害

1 教科等

小学校第4学年 特別の教科 道徳

2 主題名

どちらのルールを守るべきか

3 ねらい

- ケータイを使うときにどちらのルールを優先するのかを考えさせ、自分とは違う立場の考えを尊重する態度を養う。
- 内容項目：B 主として人とのかかわりに関すること〔相互理解、寛容〕

4 教材

動画「“ウチら”のルールとわが家のルール」（出典：ネット社会の歩き方）

一般社団法人日本教育情報化振興会

【あらすじ】 主人公はケータイを持つことになった。家族で話し合っ「9時までに居間の充電器に置く」というルールを決めたが、クラスの仲の良い友達とも「件名に『星印』が書かれたメールは5分以内に返事を送る」というルールを決めることになる。ある夜、ちょうど9時前に友達から「星印」が書かれたメールが届き、主人公はどちらのルールを守ればいいのか迷う。

5 主題設定の理由

○ 題材について

動画の最後には「わが家のルール」と「ウチらのルール」のどちらを優先すればいいか主人公の迷う姿が描かれている。主人公が迷っている理由を考える中で、もし自分が当事者だとしたらどちらのルールを優先するかなどを話し合う活動を通して、学級で異なる意見の友達がいることに気付くとともに、立場の違う相手の考えを尊重することの大切さに気付かせたい。

○ 指導に当たって

本教材では、児童が「わが家のルール」を選んでも、「ウチらのルール」を選んでも間違いではなく、どちらを選ぶのか根拠を持って考えることが重要であり、そのような態度を育てることができると思われる。また、自分の考えの根拠となる理由を明らかにしながら意見を交流させたい。そして、異なる意見を認め合うことが大切であることに気付かせたい。

6 本時と人権教育

- 自分とは違う相手の考えを尊重することの大切さに気付く。（価値・態度的側面）
- 対立的な問題について双方の立場を理解して解決しようとする。（技能的側面）

展 開

人権教育の視点から特に重要なこと…★

学習活動

<導入>

- 1 自身のインターネットを使う時のルールを発表する。

<展開>

- 2 動画教材を視聴し、「わが家のルール」と「ウチらのルール」の内容を確認する。
- 3 自分が動画の主人公の立場ならばどうするかを考え、グループで意見を交流する。

<終末>

- 4 感想を書き、他の児童と共有し、まとめの話を聞く。

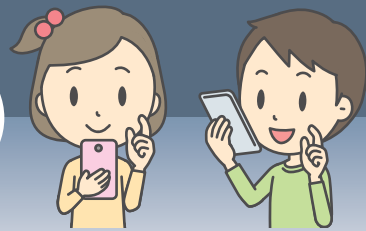
主な発問と予想される反応

- インターネットを使うときのルールはありますか。
 - ・ 他人を傷付ける書き込みをしない
 - ・ 1日1時間まで
 - ・ 9時を過ぎたら使わない
- 「わが家のルール」と「ウチらのルール」のそれぞれの内容について確認しよう。
 - 〈わが家のルール〉
 - ・ ケータイの使用は夜9時まで
 - ・ 夜9時に居間の充電器に差し込む
 - 〈ウチらのルール〉
 - ・ 星印のメールは5分以内に返事を送る
- ◎ 自分ならどうするか理由も併せて考えよう。
 - 【友達に返事を送る】
 - ・ 友達関係を崩したくないから
 - ・ 家の人には話せば分かってくれると思うから
 - 【ケータイを充電器に差し込む】
 - ・ 使えなくなるのが怖いから
 - ・ 次の日に友達に話せば分かってもらえると思ったから

指導・援助の留意点

- ネットを使う上でのルールを決めている例を発表させ、守ることができているかどうか発表させる。
- 「わが家のルール」と「ウチらのルール」をしっかりと押さえ、登場人物の行動や発言を確認する。
- ★ 他の児童の考え（思い）を聞く中で、「どちらのルールがいい、悪い」ということではないことを押さえ、多様な考え方を尊重することの大切さに気付かせる。
- ルールを決める際には、そのルールに関わるすべての人がしっかり話し合い、納得できるものに行うことが大切であることを伝える。

文字だけじゃわからない



インターネットによる人権侵害

1 教科等

小学校第5学年 学級活動

内容(2)イ よりよい人間関係の形成

2 題材設定の理由

電子メールやSNSなどの普及に伴い、児童のインターネットを利用したコミュニケーションのよりよい在り方について理解を深めていかななくてはならないと考える。この教材では、友達から仲直りのメッセージが来た場面を想定し、文字だけでは自分の思いと違う伝わり方をすることがあることに気づき、情報発信者として相手のことを考え、尊重する態度を養いたい。

3 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
情報発信者として相手のことを意欲的に考えようとしている。	相手の気持ちを考えた上で、自分の思いの適切な伝え方について考え、判断できる。	文字だけでは、自分の思いと違う伝わり方をすることがあることについて理解している。

4 事前の指導

	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
○月○日	SNSの正しい使い方についてアンケートに答える。	SNSのよりよい使い方について意識が持てるようにする。	自分のSNSとの付き合い方について振り返ることができる。
○月△日	情報モラル教育について資料から知る。	SNS上で問題になっている事例を取り上げることで問題意識を高める。	SNS上で問題になっている事例について理解することができる。

5 本時と人権教育

○ 相手を大切にするとともに、自分を大切にし、それを行動に移そうとする態度を養う。

(技能的側面)

6 本時のねらい

- 文字を使ったインターネット上のコミュニケーションでの特徴を理解して、相手へ伝わり方をよく考えてSNSを利用しようとする態度を育てる。

展開

人権教育の視点から特に重要なこと…★

学習活動

<導入>

- 1 トリックアートを見て、何が見えるかを答える。
- 2 資料1の「けんかの後の仲直り」の場面を読み、めあてをつかむ。

<展開>

- 3 相手の受け取り方を考えた返信を考える。

4 <終末>

本時の振り返りをする。

教師の指導・支援

- トリックアートを見ることで、同じものでも人によってとらえ方が違う場合があることに気付かせる。
- 同じ表現でも人によってとらえ方が変わってしまうことを確認し、本時のめあてをつかむ。

自分の思いを正しく伝えよう。

- 「もういいよ!」という言葉が、許しているのかいないのかを問いかける。なぜ許したと思うか、許していないと思うか、その理由も考えさせる。
- 許したことが伝わるように仲直りの返事を送るなら、どのようなメッセージを送るかを考えさせる。
- 考えたメッセージの内容を発表させて、全体で共有する。
- 文字だけで自分の気持ちをすべて伝えることが難しいことを確認し、誤解されないようにするためにどうしたらよいかを考えさせる。
- 学習を通して考えたことや感じたことを発表させ、実践行動へ結び付けることができるようにする。

学習評価

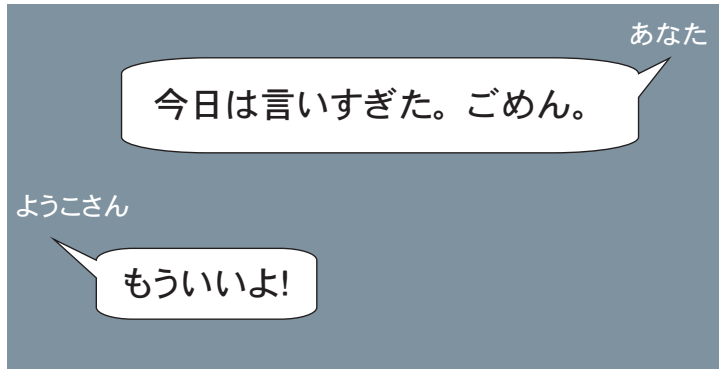
- 文字だけでは自分の思いと違う伝わり方をすることがあることについて理解できる。〔知識・理解〕
〔行動の観察〕
- ★ 相手の気持ちを考えて、自分の思いを適切に伝えることができる。
〔関心・意欲・態度〕
〔ワークシートの記述〕

事後の指導

児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
ネットの悪口について考える。	具体的事例を挙げ、SNS上で相手の気持ちを考えることや他人の悪口を書き込むことに対して、考えさせる。	他人の悪口をSNS上に書くことの拡散性について理解し、実生活に生かそうとしている。

文字だけじゃわからない

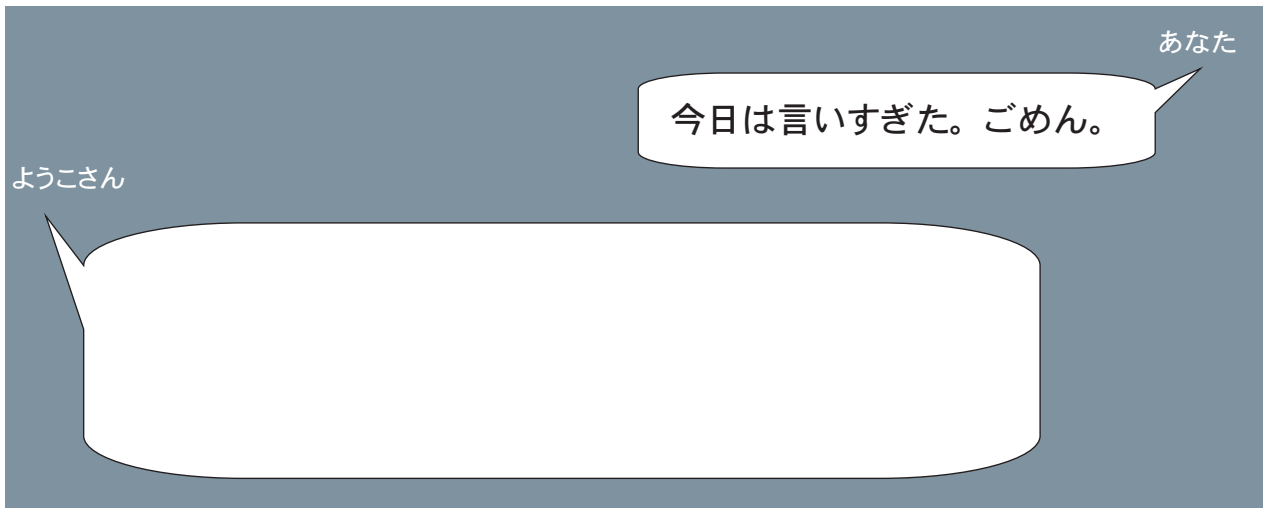
年 組 名前（ ）



あなたは今日、ようこそさんとけんかをしてしまいました。家に帰ってよく考えると自分の方が悪かったと思いました。仲直りの電話をしました。電話がつながりません。早くあやまりたいのでとりあえず「今日は言いすぎた。ごめん。」とメッセージを送りました。その後、ようこそさんからは左のようなメッセージが届きました。

- 1 ようこそさんは許してくれたのでしょうか？ 理由も書きましょう。
(許している ・ 許していない ・ わからない)

- 2 あなたがようこそさんとして仲直りのメッセージを送るとすると、どう書きますか？



- 3 今日の学習を通して考えたことや気を付けたいことを書きましょう。